

第1節 経営状況点検表の活用方法

企業の経営は、特に中小企業においては、経営者の手腕によって良くも悪くも大きく左右される。自分では正しい経営手法をとっていると思っていなくても、いつの間にか企業環境の変化に適応できなくなっている場合も多い。そこで、自社の経営のあり方が正しいか、常にチェックすることが必要である。

第2節に掲げた経営状況点検表は、経営者自らが、自社の状態を確認しながら、点検するという位置付けで作成したものである。しかし、経営者一人が点検すると、甘くなりがちである。したがって、幹部社員や取引先にも点検してもらって、比較することが望ましい。

経営状況点検表は項目ごとに、達成の度合いを5段階で評価するものとしている。業界の平均状態を3とし、最も良い状態を5、最も悪い状況を1としてチェックしてほしい。理想的には、同業他社と比較してどのような状態かを判断することが望ましい。つまり、自己満足で良い・悪いを判断するのではないということである。そのため、地域の同業他社との情報交換や業界紙等からの情報収集に心がけることが重要になる。

しかしながら、現時点では、十分な業界情報を持っていない場合も多いと考えられる。その場合は、とりあえず自分の判断でチェックすることにより、経営状況を確認するための方策として活用して頂きたい。

点検項目は、数多く設定すれば精度は高まる反面、膨大な分量となり、チェックに相当の時間が必要となってしまう。また、点検項目の中には個々の経営実態にそぐわない項目が入る場合もある。そこで、この点検表は、短時間に自社の強み・弱みを把握し、タイムリーに経営に生かすことを目的として、できるだけ必須項目のみを抽出し、短時間で点検できるようにした。各社の事情によって、必要な項目は追加し、実態にそぐわない項目は削除し、各社オリジナルの点検表を作成して欲しい。

また、点検表の最後にはレーダーチャートを作成するようしている。これにより、大枠で長所と問題点を把握し、その上で細部について振り返り、そして今後の対策を立案するのが効果的と考える。

なお、点数はあくまでも目安であり、点数によって一喜一憂するものではない。点数の高い項目はそれを維持し、低い項目は、その背景にある原因を追究して改善活動を行うきっかけ作りをしていただきたい。